

2019年3月期 決算説明資料

2019年7月4日
株式会社ゼネラル・オイスター



General Oyster

Copyright © General Oyster Inc. All Rights Reserved.



1. 2019年3月期 業績概要

1

店舗数の減少により、売上高は減少したが、EBITDAベースで黒字化を達成。

売上高	3,706百万円（前期比増減額 ▲148百万円）
EBITDA	72百万円（前期比増減額 +139百万円）

2

第3四半期、第4四半期は営業利益黒字化

第3四半期	営業利益	58百万円（前期比増減額 +10百万円）
第4四半期	営業利益	63百万円（前期比増減額 +114百万円）

3

店舗事業は、予約数が前期比約50%増え、下期にかけて既存店売上高が堅調に推移

4

卸売事業は、国内外の新規開拓に取り組み、今後に向けて一定の成果

5

OPC会員数は前期比+31%伸び、顧客基盤が拡大

2019年3月期 損益計算書

不採算店閉店等の販管費削減が寄与し、営業赤字幅が縮小、EBITDAが黒字転換。

(百万円)	2017年度	2018年度	増減額	ポイント
売上高	3,854	3,706	▲148	・店舗事業は店舗数が減少
EBITDA	▲67	72	+139	・黒字転換を達成
販管費	2,765	2,499	▲266	・人件費削減△127M ・地代家賃削減△19M ・支払手数料等削減△62M
営業利益	▲160	▲21	+139	
特別損失	118	354	+236	・加工工場関連資産の減損損失を計上。
当期純利益	▲293	▲269	+24	

2019年3月期 貸借対照表

加工工場を主とする共用資産の一部を減損。将来の減損リスクの低減と加工工場の早期収益化に向けて財務面での整理を行う。

(百万円)

資産の部	2017年度	2018年度	前期末比 (%)	負債・純資産の部	2017年度	2018年度	前期末比 (%)
流動資産	752	510	67.8	流動負債	903	759	84.0
現金及び預金	439	131	29.8	支払手形・買掛金	111	123	110.8
売掛金	206	206	100.0	短期借入金*1	225	258	114.6
棚卸資産	44	100	227.2	その他	566	377	66.6
その他	61	72	118.0	固定負債	924	691	74.7
固定資産	1,678	1,255	74.7	長期借入金	316	181	57.2
有形固定資産	1,406	1,022	72.6	その他	607	509	83.8
無形固定資産	7	4	57.1	負債合計	1,828	1,450	79.3
投資その他の資産	263	228	86.6	純資産合計	601	315	52.4
資産合計	2,430	1,765	72.6	負債純資産合計	2,430	1,765	72.6

*1. 1年内返済予定の長期借入金を含む

2019年3月期 主な取り組み

2019年3月期は以下の通り、重点施策・中期施策に取り組んできた。

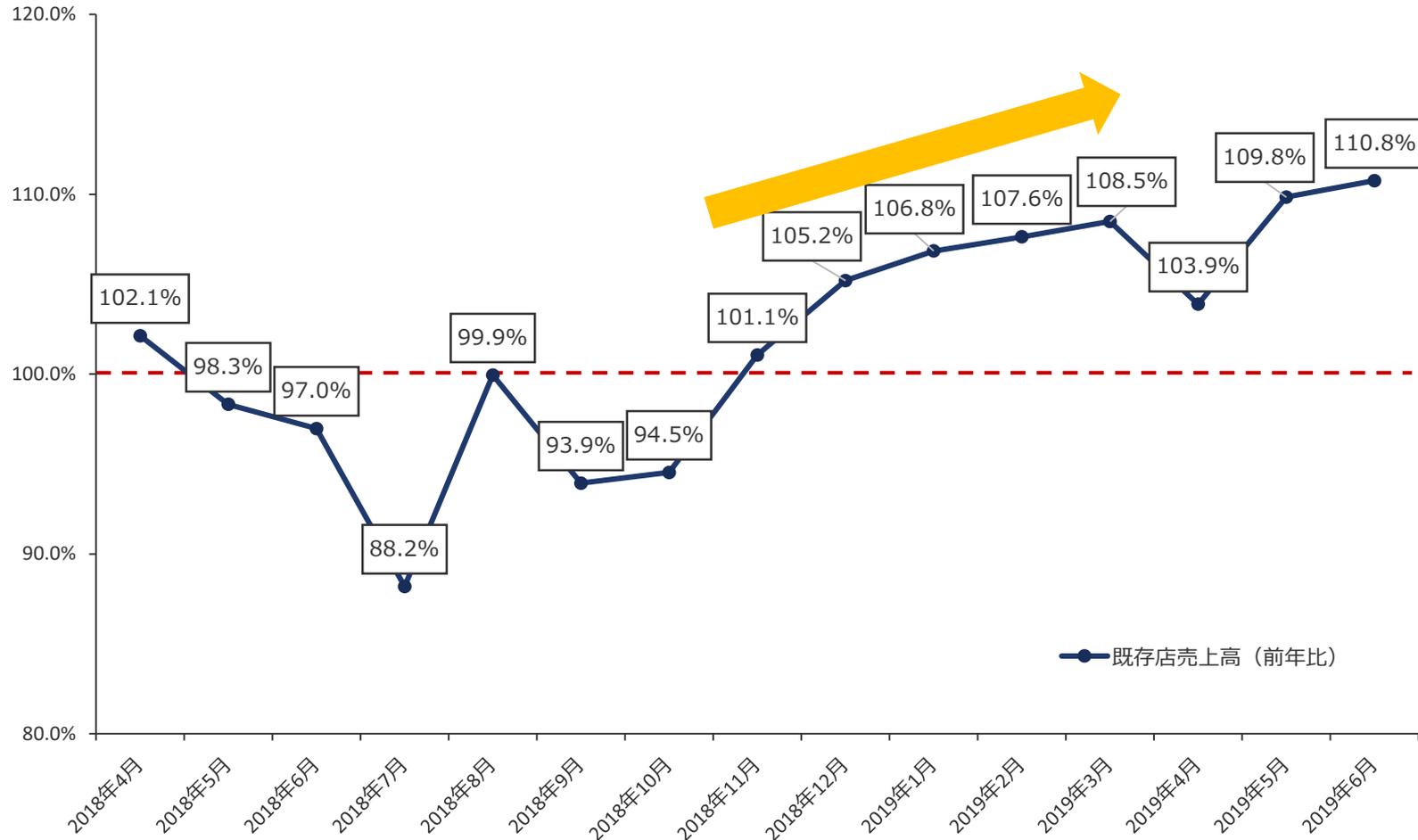
事業領域		主な取り組み及び実績
重点施策	1 店舗事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ メニュー再構築やサービス品質向上による、来店客数、客単価の向上。 ■ Web予約を強化したことにより、予約数の大幅なアップ。
	2 卸売事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大口顧客の獲得及び主要顧客化。 ■ 今後の海外販路拡大にも布石を打った。
	3 加工事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大槌工場では、自社店舗向け製品製造に注力し、生産ラインの安定稼働を実現し、セントラルキッチン機能を確立。 ■ 加工品販売先拡大に取り組み、早期の収益化を目指す。
中期施策	4 陸上養殖事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ スモール・スケールプラント建設し、ウイルスフリー牡蠣の商品化に向けた実証実験を加速。

(※) 当該事業区分は会計上の報告セグメントで使用する事業セグメント区分ではございません

ご参考 | 既存店売上高推移

不採算店の撤退を実施した他、足もとは既存店自体の成長も堅調。2018年11月以降、既存店売上高は前年越えを記録している。

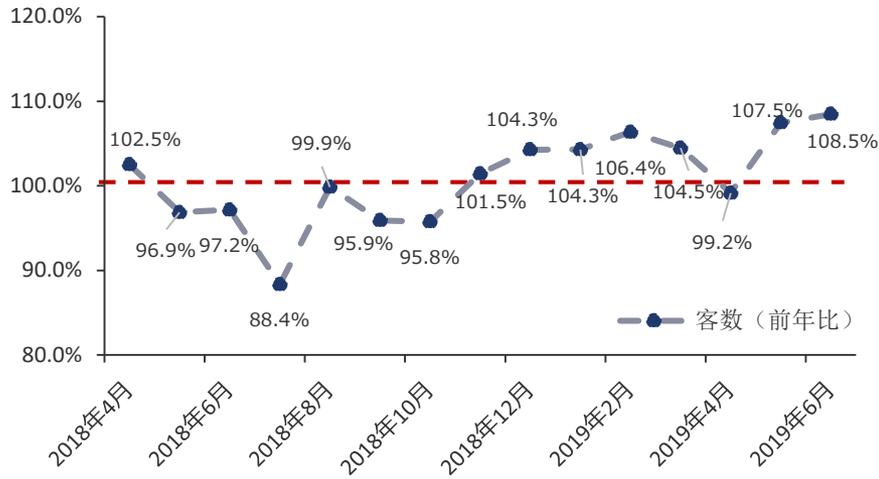
店舗事業既存店売上高_前年比



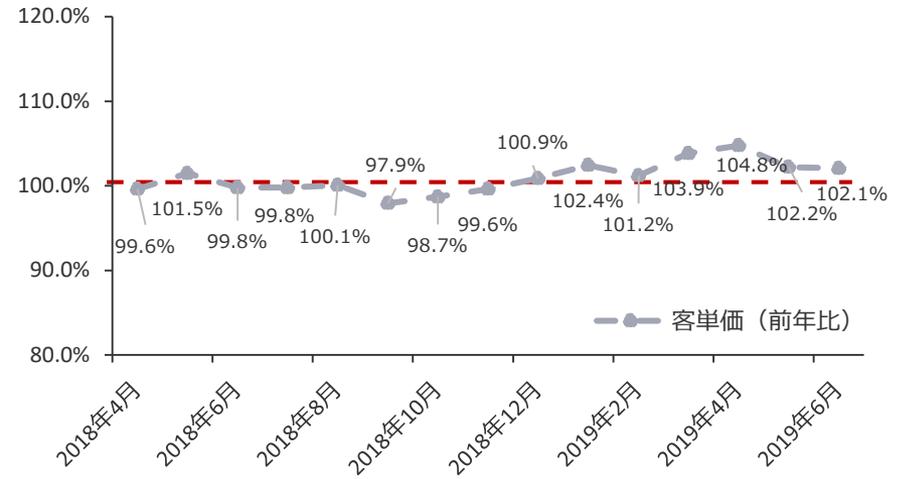
ご参考 | 既存店客数・客単価推移

既存店の客数・客単価も堅調に推移している。

店舗事業既存店客数 前年比



店舗事業既存店客単価 前年比

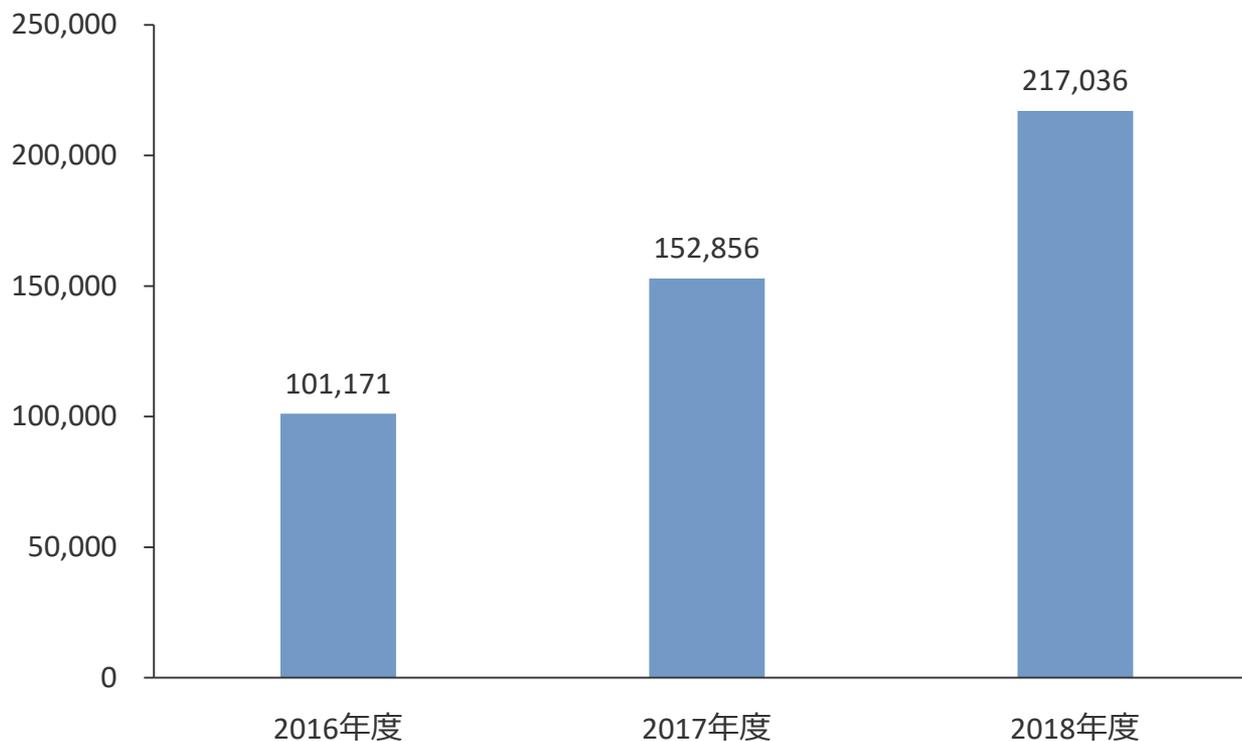


ご参考 | OPC会員数推移

店舗で利用できる「オイスターピースクラブ（OPC）会員数」も順調に拡大。
業績の底上げに寄与。

OPC会員数推移

(単位：人)





2. 2020年3月期 業績見通し

2020年3月期 決算見通し

既存店の伸びなどにより**増収増益**を実現する見通し。

(百万円)	2018年度	構成比 (%)	2019年度	構成比 (%)	増減額	増減率 (%)
売上高	3,706	100.0	3,737	100.0	+31	+0.8%
売上総利益	2,478	66.8	2,479	66.3	+1	+0.04%
販管費	2,499	67.4	2,444	65.4	△55	△2.2%
営業利益	△21	-	35	0.9	+56	-
経常利益	△18	-	19	0.5	+37	-
当期純利益	△269	-	9	0.2	+278	-



General Oyster

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。